

# TZ 〈ほんの窓〉

第 30 号 (2011. 7. 13) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班



大学で「学ぶ」とはどういうことなのでしょうか。今までの「勉強」とどう違うのでしょうか。2つほど例をあげてみます。

「大学は学校ではない」(p.232)

『新・知の技法』小林康夫、船曳建夫編、東京大学出版会、1998 【0020:42】  
いままで学校といえば、中学や高校のようにすでにわかっていることを学ぶ場所でしたが、大学は「学び方を学ぶ」(p.235) 場所、今まで言われていなかったことを見つける場所であると述べています。

「ものごとを統一的にとらえる修練」(p.17)

『大学でいかに学ぶか』増田四郎著、講談社、1966 【2000:5】  
本学で学長を務めた故増田四郎先生は、大学で勉強する究極の狙いとしてこのように述べています。様々な出来事をバラバラにではなく、「時代の動きとともに、統一的に理解していく」(p.17) ことの大切さや、学問をすることとはどういうことなのかをご自身の経験談を通じて述べられています。

これら2冊の本だけでも、大学での勉強は高校までの勉強とは違いそうだ、ということを感じられると思います。違うのは分かったけど、どうしたらいいの?という方のために、大学での学びの技法(academic skills)を紹介した本がたくさん出ています。今回のTZではこれらの本をご紹介します。なお、既刊のTZ第20号、第26号も参照してください。

## Basics 全般的な本

大学生生活に必要な学びの技法全般を1冊で網羅している本が見たい、そんな方にオススメの図書です。

- 『スタディ・スキル入門：大学でしっかりと学ぶために』天野明弘、太田勲、野津隆志編、有斐閣、2008 【3700:3207】  
人文社会系、自然科学系のスタディ・スキルの両方を網羅し、両者の研究に対する取り組みの違いを感じることができる。
- 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』佐藤望編著、慶應義塾大学出版会、2006 【0020:101】  
学びの技法がコンパクトにまとまっている本。附録の「書式の手引き(初級編)」がレポート・論文を書くときに便利。
- 『大学基礎講座：充実した大学生活をおくるために』藤田哲也編著、北大路書房、2006 【3700:2715】  
ノートの取り方やレジュメの作り方、ゼミ発表の仕方まで大学生活において最低限知っていたいことを網羅している本。  
また、章ごとにQ&Aコーナーがあり、疑問を解決してくれる。
- 『大学で勉強する方法』A.W.コーンハウザー著、玉川大学出版部、1995 【3700:3338】  
勉強に対する姿勢や取り組み方を、「活動的に勉強しなさい」といったわかりやすく、簡単なアドバイスで教えてくれる本。
- 『大学生のための学習マニュアル』L.タンブリン、P.ウォード共著；植野真臣[ほか]訳、培風館、2009 【3700:3504】  
最先端の学習科学での成果を実際の学習に活用するためのガイドブック。データや研究に裏付けされた学習方法に基づいた読書法やノートの取り方、思考法などについて解説されている。「効率のよい学習」を目指す方に。

## Thinking 考え方、思考法を学ぶ本

自分で考えるとはどういうことなのか、「知る」と「考える」ことの違いを知りたい、そんな方にオススメの図書。

■『思考の整理学』外山滋比古著、筑摩書房、1986【1400:1392】

新しい考えを生み出し、寝かせ、熟成あるいは成長させる方法を著者の経験、意見を交えておもしろく紹介してくれる本。

■『大学での学び方：「思考」のレッスン』東谷護著、勁草書房、2007【0020:108】

論文執筆の際につまずきがちな「問いを立てる」方法について、「読む」「調べる」「書く」中で「問い」を見いだす方法を解説。

■『ザ・マインドマップ：脳の力を強化する思考技術』トニー・ブザン、バリー・ブザン著；神田昌典訳、ダイヤモンド社、2005【1400:1110】

思考のプロセスを目に見える形に変換する、マインド・マップという手法を用いて簡単に創造的思考にたどり着く方法を解説。

■『発想のための論理思考術』藤田哲也編著、日本放送出版協会、2010【1100:492】

■『「論理的」思考のすすめ：感覚に導かれる論理』石原武政著、有斐閣、2007【1400:1128】

## Reading 読み方、調べ方を学ぶ本

何かについて知るためには欠かせない読書という行為。どんな風に読むか、読み方の技術を紹介してくれる図書です。

■『「読む」技術：速読・精読・味読の力をつける』石黒圭著、光文社、2010【0100:602】

読み方の引き出しを増やすことは文章に込められた意味を享受できるということ。「速読」「精読」「味読」という読書法の解説を通じて、自由に読書することへ導いてくれる図書。

■『読書術』加藤周一著、岩波書店、2000【0800:85:S/24】

どう読んだらよいか、読む本の特性に応じた読み方を紹介。「わからない本は読まないこと」など独特な読書術が興味深い。

■『本を読む本』M.J.アドラー、C.V.ドローレン著；外山滋比古、榎未知子訳、講談社、1997【0800:34:1299】

読書を初級読書、点検読書、分析読書、シントピカル読書の4つに分けて解説し、積極的に努力して読むことを教えてくれる。

■『本はどう読むか』清水幾太郎、講談社、1972【0100:33】

どういう本を、どういう方法で読んだらいいのか、忘れないためには、といった読書法に関する著者の経験から来るアドバイス。

## Writing 書き方を学ぶ本

レポート・論文を書かなければいけない、でも何から始めればいいのかわからない、そんな方にオススメの図書です。

■『論文の書き方マニュアル：ステップ式リサーチ戦略のすすめ』花井等、若松篤著、有斐閣、1997【8100:314】

論文執筆の作業工程を細分化し、段階ごとに解説。それぞれの段階でのポイントや注意すべき点も述べられている。

■『学術論文の技法』斉藤孝、西岡達裕著、日本エディタースクール出版部、2005【8100:809】

学術論文とは何か、ということから始まり、論文の体裁や文体、注についてなど、学術的な論文の約束事を網羅している。

■『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著、講談社、2009【8100:1004】

レポートや論文の基本の「き」から解説。文字・記号の使い方や提出時の注意点まで初めてレポートを提出する時の参考書。

■『知の技法』小林康夫、船曳建夫編、東京大学出版会、1994【0020:8】

■『論理性を鍛えるレポートの書き方』酒井浩二著、ナカニシヤ出版、2009【8100:1006】

■『論理的に書くためのルールブック』アンソニー・ウェストン著；古草秀子訳、PHP 研究所、2005【8000:548】